

異業種交流会『ロコラボ』 グループセッションアイデア集

第2回定例会 5月23日(金)

テーマ：「少子高齢化時代に自分、自社の業種の強みを活かして次世代のビジネスを作る。」

A 班	現役でいつまでも働ける施設を作り、そこを支援する	<p>農場を持ち、高齢者に農業をしてもらい、作ったものを販売し、加工して料理を出す。</p> <p>その施設では健康を保つ為、運動指導者が運動を指導して皆さんの健康を保つ。</p> <p>高齢者向けの起業指導を行いどんどん起業してもらおう。</p> <p>起業が増え人材が集まるので人材派遣をスタートする。</p> <p>高齢で働けなくなると若者への技術指導にまわり、シルバーパワーを見せつける！</p> <p>そうすることにより経済がさらにまわり投資をどんどん呼び込む。</p> <p>健康を保つのが厳しくなったら併設の病院に入り、ともに働いた仲間とともに心豊かな最後を迎える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ターゲットを高齢者に特化したモデルで窓際から墓場まで！シルバーパワースेटつけます！！</p>
B 班	おじいちゃん、おばあちゃんが子供たちを教育する塾。	<p>まず若者からお年寄りまで同じ空間に入れるようなデザインする。</p> <p>ステーションナリーや玩具を、紙の玩具や昔ながらの物の復刻版にして、お年寄りが使い方の授業をする。</p> <p>子育てと食は切り離せないので食育プログラムを取り入れる。</p> <p>子供たちを預けた親が安心して働けるよう、またおじいちゃんおばあちゃんとの交流の様子を見られるように遠隔監視ネットワークを設計。</p> <p>そこに参加するおじいちゃん、あばあちゃん自身も学べるように生涯学習プログラムを組み込む。</p> <p>その塾を法人化し、登記業務や紛争解決を専門家がフォローする。</p> <p>おじいちゃんおばあちゃん、子供たちの身の回りのお世話を家事サービス業と提携して</p>
C 班	JIJIBABA の家	<p>コンセプトは高齢者が保育所のようにいろいろなメニューを考えて子供を保育する施設。</p> <p>JIJIBABA の家には遊漁船があるので施設内だけでなくアウトドアに出て子供とお年寄りが一緒に楽しむことができる。</p> <p>労務管理や知的財産の確保なども専門家がいるのでしっかりしている。</p> <p>「JIJIBABA の家」という名前だが HP、ロゴなどプロがいるのでとってもオシャレ！</p> <p>仕事に疲れた際にはセラピーで心のケアも可能。</p> <p>少子高齢化の時代なので親が安心して働ける場を作り、そこで高齢者に働いてもらう。</p> <p>保育を通じて高齢者の経験、能力を最大限に生かし、高齢者自身にも自己実現の場としてもらう。</p>

第3回定例会 6月20日(金)

テーマ：「今後発足させたい分科会」

A班	子育て窓口アドバイザー	<p>単に子育ての悩み相談ではなく、保健の窓口のファイナンシャルプランナーのように、その人の人生設計を聞き、提案してくれるアドバイザー。子供を産んだあとの養育資金や預け先の相談。</p> <p>田舎での子育ての際の相談。</p> <p>海外留学させたい場合には、その際の資金や奨学金の相談。</p> <p>海外の大学に行くなら中学からここに入ったほうが良いとか、学校単位の留学枠などの情報提供。</p> <p>プランナーとして情報やデータを持っていて、悩みに対してプロの視点から解決してくれるアドバイザーがいると、これからの子育てに対して様々な判断が出来る。例えば子供を田舎で育てたいと思ったときに、それが実現できる親もいるが、どうすれば良いのかわからない親がいる。そんなときにアドバイザーの的確なアドバイスがあると、自分の子育てに対する不安がなくなり、子供の減少が多少減るというアイデア。</p>
B班	心の街づくりコーディネーター	<p>最近子供が少なくなり、学校の友達や近所の同じような世代を持っている家族が減少している。</p> <p>ご近所レベルで集まってイベントや旅行をするようなことが減っている。</p> <p>昔のような自治会も少なくなり地元のつながりが減っている。</p> <p>若い人が今子供を産めないのは産んでも育てられない不安がいっぱいあるから。</p> <p>そこで自治会など地域コミュニティがない（少ない）エリアに自治会リーダーを外注してコーディネートして入り、コミュニティをつくり、その中で子育ての相談や、おじいちゃんおばあちゃんが子供の面倒を見たりとか、そういうコミュニティのプロデュースをビジネスとして行っていく。</p> <p>地元のコミュニティが発展すれば各コミュニティ同士の繋がりから町同士の交流も生みだしていくというアイデア。</p>
C班	リアルコミュニケーションビジネス	<p>イメージ戦略でいきます！</p> <p>人と人がリアルに出会える場所。</p> <p>リアルな付き合いができる町。</p> <p>そういうリアルな関係を作っていこうというイメージのビジネス。</p>

第4回定例会 7月18日(金)

テーマ：「今の子供たちが将来ハッピーになるビジネスをまず考える。」

15年後に通用する為に自分のビジネスをどう変化させていくか

A 班	宇宙産業	<p>ターゲットは全世界の方。</p> <p>飢饉や飢餓など、様々な物を安定供給出来てない事での問題を解決。</p> <p>宇宙産業ということで宇宙ステーションを作る。</p> <p>宇宙の品々、例えば月のジュエリーを雑貨物としてチュニジアの人に届ける。</p> <p>宇宙で鳥や野菜を宇宙で作って安定供給。</p> <p>いま日本の鳥はわざわざブラジルから仕入れているが宇宙からだとな安定供給できる。</p> <p>宇宙で使える消えないボールペンの開発。</p> <p>働いて溜まったストレスをスポーツイベントで解消。</p> <p>権利物が発生するので弁理士の先生に依頼。</p> <p>最後電力が必要なので宇宙で太陽光発電。</p>
B 班	アミューズメントを含めたカジノ進出を視野に入れた観光業	<p>カジノ進出を視野に総合アミューズメント事業。</p> <p>海外観光客向けの通訳。</p> <p>建築物が出来ていくので設計関係。</p> <p>観光される方には地産地消で美味しい食材提供。</p> <p>全体的にお金があるので金融の方が必要。</p> <p>事務所が必要になるので様々なオフィス機器供給。</p>
C 班	日本的感性教育	<p>ソフト産業、日本人が乗っているすばらしい感性であつたりとか、古き良き日本のおもてなしの心、食文化を世界に発信。</p> <p>物ではなくそういう感性を世界に発信。</p> <p>日本人は細やかな感性を持っていて、文化の中でもたくさんのすばらしい物がある。</p> <p>日本の物をそのまま持っていくのではなく、例えば和菓子職人さんがその感性でチョコレートと作るとすばらしいチョコレートが出来たという話がある。</p> <p>世界中からトップレベルの人を招き、そういうセンスを磨くような教育を提供。</p>

第5回定例会 8月22日(金)

テーマ：「淡路島で今から着手出来るビジネス機会を考える。」

A 班	情報発信ビジネス	<p>学生向けのスポーツ合宿出来る宿、施設の情報提供。 定年後の方や若者向けの週末農業の情報提供。 子供たち向けの農業体験、漁業体験情報。 定年後の移住（定住）希望者向け情報提供。 休耕田や農地取引の情報提供。</p>
B 班	観光サービス業	<p>ターゲットは中高年の方 環瀬戸内でとれた名産物などを食べるツアーを企画。 海の美しさや美味しい物を食べて、淡路やその周辺のことを知ってもらい楽しんでもらう企画。 淡路を拠点に周辺の島を船でクルージングするという企画。 地中海クルージングのような少しリッチなツアーをイメージ。 淡路のパワースポットやレトロな町並みを回ってもらう。 案内やガイドの仕事を一番詳しい地元の人にやってもらう。</p>
C 班	観光業	<p>ターゲットは外国人の方。 浴衣、流しそうめん、花火、神社参拝、温泉など日本人にとって当たり前の文化を観光資源にする。 宿泊利用可能な古民家や古別荘を再利用。 島内から周辺の島も含めての自転車周遊企画。 淡路ビーフやタマネギ、魚介類など淡路の食を外国人に提供。 淡路島に外国人が増え、子供が外国語や異文化にふれ、将来的に語学力をつけるということでのいろんな仕事をする上で役に立つ。</p>

第6回定例会 9月19日(金)

テーマ：「今年入学の小学生が大人になる頃（約15年後）に彼らが『仕事したい！』

と思える淡路島ビジネス」

1 班	淡路島を定年後に住み易い地域にするサービス業	<p>老人の介護などのサービスを一手に引き受ける。 老人が住み易い町にして定年後の移住者など呼び込み、そこをターゲットにしたサービスを行う。</p>
2 班	農業法人	<p>淡路と言えばやはり「食」。 淡路の中でも特に美味しいタマネギなどの「野菜類」を販売するモデル。 販売方法は農協などを通さず直接販売。 集客方法は口コミのみにして顔の見える販売方式をとる。 営業にはプロの語り部さんを使い、説得力を持って説明していただく。 顔を見て人と人とのつながりを大事にした商売を大事にしたい。</p>

3 班	匠の技育成事業 伝統を守る	<p>若い人の流出している現状の中で、若い人々に魅力を持ってもらうにはどうすれば良いか。淡路にしかないもの、淡路自身の独自支援はなにか。まず淡路に誇りを持ってもらう。淡路の誇りは国生み神話。日本で始めて出来た島国で、日本一古い土地。その古い土地では日本の伝統文化が脈々と受け継がれている。</p> <p>伝統の匠の技は継承していく物なので少子高齢化の中の高齢者の方に継承して頂く。</p> <p>もともと大工さんをしていた、左官屋さん、金属加工の職人などをしてきた人々など。現在は会社を辞めて、引退してくすぶっている人たち。その為に淡路島をお年寄りの住み易い街にして、全国に散らばった伝統技術を持った方に淡路に魅力を感じて頂き、住んで頂く仕組みを作り、若い人たちに技術を教えて頂く。</p> <p>今の若い人たちの中には、お金ではなく自分のした仕事を後世に残したいというニーズがある。そういった若い人たちが学べる町づくりを目指す。</p> <p>お年寄りが若いときに学んだ技術を今の若い人に安く教え、継承していく。技術の継承を受けた若い人たちが次は企業から呼ばれたり、世界に飛び出したり、淡路以外の全国に散らばり、その技術を活かして活躍し、伝統技術を全国に振りまいていく。</p> <p>若い人たちは淡路で学んだ技術を外に出し、淡路ブランドを確立し、引退後は淡路に戻りまた次の世代に技術を継承する。循環型にしていく。伝統技術循環型の町づくりモデルを創る事により、人口が増え、観光産業、住宅産業などすべて潤うということで「匠の技育成事業」を考えました。</p>
4 班	サービス業（食の駅あわじ）食のテーマパーク	<p>淡路を一つにしていきたい。チームメンバーが人をサポートする事業の方が多かったので、拠点の一つ作り、そこにみんなが事業として入っていくことにした。</p> <p>他のエリアは野菜が美味しい、魚がおいしいなどがあるが淡路の食は全てがおいしいので日本で絶対的に自慢が出来る。</p> <p>ならばその優れた食の部分の一つのテーマパークにしようというアイデア。例えば漁師さんが捕れた魚を売ると道の駅になるが、食の駅では普段一般人が食べれない漁師飯を漁師さんに作ってもらい販売する。淡路の肉野菜魚を全て味わえる「アワジアン料理」を創る。</p> <p>15年後に伝えていく為に食育も含めた食の体験施設を創る。食のイベントを行い地産地消などを伝えていく。</p> <p>出来た物をお土産として販売、レストランで「アワジアン料理」を提供し収益を上げていく。そこで出てくるお皿は淡路の瓦を使うなど様々なものがリンク出来るし、産官学一体となり活動出来るのではないかと思います。</p>